

# — AI型ドリルを使った学習 —

「自立した学習者」になるために

5年算数

めあて「全員が、速さのいろいろな表し方の問題をクリアしよう。」



←①問題に取り組む  
まずは自分の力で解きます。お互いが頑張れるように机を向かい合わせていました。

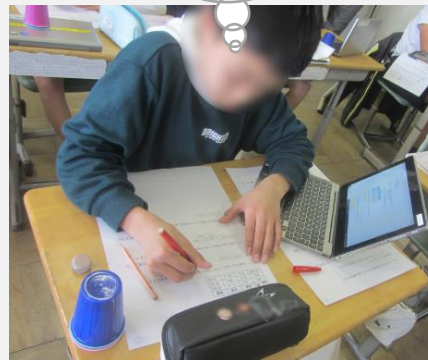


←②ヒントが欲しい時は  
ドリル内の解説やヒントを読んだり、教科書で調べたりして自分で答えを導き出します。

合っているかな？  
自分で丸つけすると、間違いもすぐにわかるな。



←③友だちと一緒に  
それでも解けない時は、友だち同士教え合います。教える側も、説明することでより考えがまとまる効果が得られます。



←④答え合わせ  
ドリル内の解答を見ながら自分で丸つけ。どこが間違っていたのかがすぐにわかります。

学習の状況を表すコップが児童の机に。  
(青は順調、青桃は一人で挑戦中、桃はヘルプ)

学校では、子どもたちが自立した学習者になるために、「分からない～!」の状態をそのままにせず、自分で調べて解決したり、習った内容を復習したりする力をつけることをめざしています。2月末、市内小学校で AI型ドリルを使って子どもが自ら学習を進める算数の研究授業が行われました。先生はサポート役として個別に声かけするなど、子どもの意欲と自信を引き出していました。市教育委員会では、子どもたちがさらに自立した学習者になるため、授業や家庭学習での AI型ドリルの活用や実践方法について研究を進めています。